

家計・くらしの調査 年次報告書(2019年分)

2020年8月
日本生協連 政策企画室

はじめに

1978年から全国の協力生協とともに実施していた「全国生計費調査」の終了をうけて、2018年1月よりあらたに「家計・くらしの調査」を開始しました。2019年は2年目の年となります。本調査に参加いただいたモニターの皆さま、ならびに本調査へのモニター募集の広報活動をいただいた会員生協の皆さまに、心より感謝申し上げます。

本調査は「全国生計費調査」の流れを汲みつつも、新たな層の方にも参加しやすくすることを目的に調査項目の簡素化を図るとともに、インターネットからの回答に限定して調査を実施しました。2019年の調査では、1,000名を超える組合員にモニターの登録をいただきました。登録モニターには毎月1回、1～12月分の収入や支出を費目ごとにWebページに入力し、データを日本生協連へ直接送信いただくという形式で取り組みました。

今回、そのうち12カ月連続で提出いただいたモニターのデータから798件を集計し、簡易ではございますが、年間報告書という形で結果をまとめました。本書について、今後の家計簿活動を促進するうえでの参考資料として、またモニターの皆さまご自身の一年間の家計を振り返る際にご活用いただけますと幸いです。なお、2017年まで実施していた「全国生計費調査」とは調査の費目が変わっているため、本調査結果との比較は行っていません。

2019年10月より消費税増税が実施され、2020年に入ってから新型コロナウイルスの感染症が拡大しており、私たちのくらしを取り巻く環境がますます厳しくなりました。皆さまのくらしの変化を知るためにも、調査を続けてまいりたいと思います。今後とも一層のご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

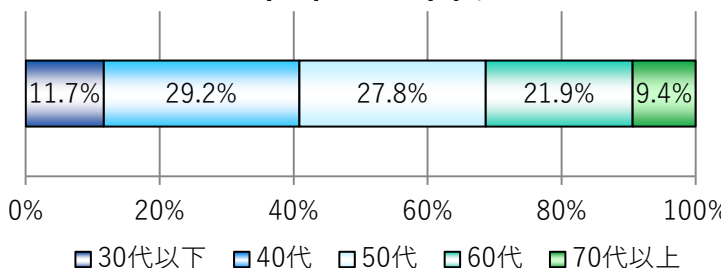
目次

モニター属性	P2
収入・支出	P3
電気・ガスの使用量・料金	P7
消費税しらべ	P9
お寄せいただいた声(抜粋)	P11

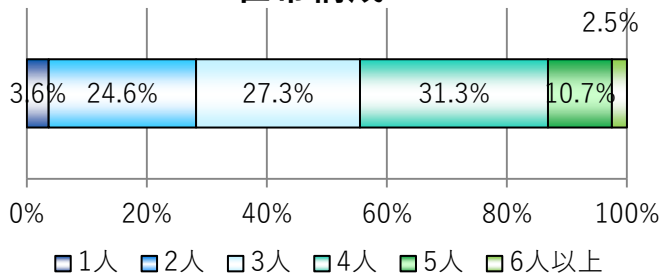
1. モニター属性

世帯主の年代は40代が29.2%と一番多くなりましたが、20代から80代まで幅広い層にご参加いただきました。世帯構成は4人家族が31.3%で、3人、2人家族と続きました。子どもの人数は2人が33.5%と一番多く、続いて1人、0人でした。世帯の主な収入は給与が8割近く占めています。なお、各モニター属性は12月時点のものです。

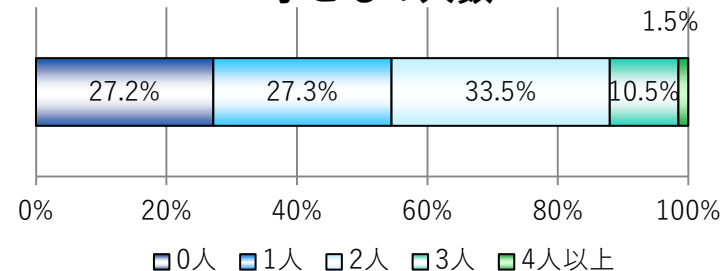
世帯主の年代



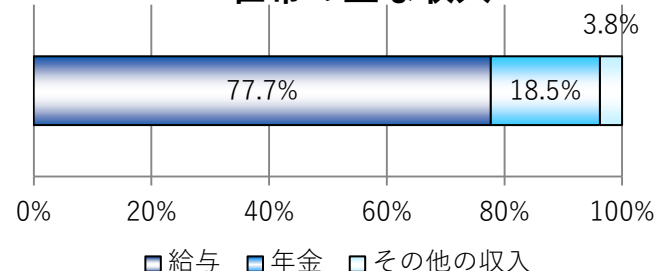
世帯構成



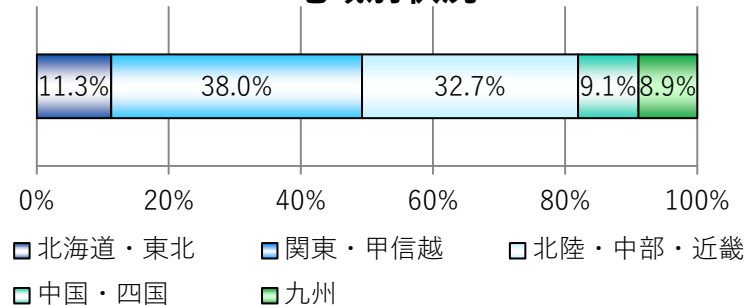
子どもの人数



世帯の主な収入



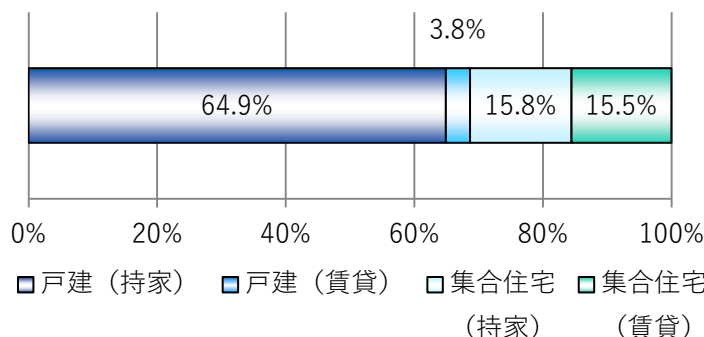
地域別状況



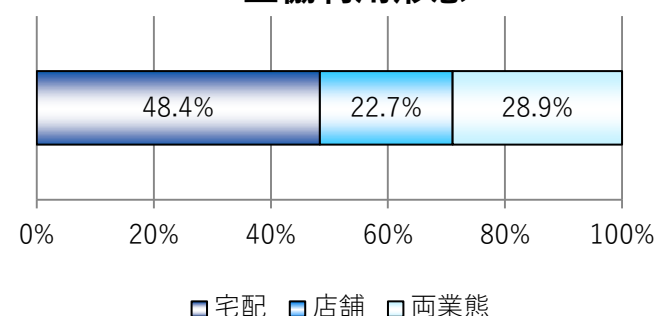
都道府県別エリア一覧

北海道・東北	北海道・青森県・岩手県・秋田県・宮城県・山形県・福島県
関東・甲信越	茨城県・群馬県・栃木県・埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・静岡県・山梨県・長野県・新潟県
北陸・中部・近畿	富山県・石川県・福井県・愛知県・岐阜県・三重県・滋賀県・京都府・奈良県・和歌山県・大阪府・兵庫県
中国・四国	岡山県・広島県・鳥取県・島根県・山口県・香川県・徳島県・愛媛県・高知県
九州	福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県・沖縄県

住居形態



生協利用形態

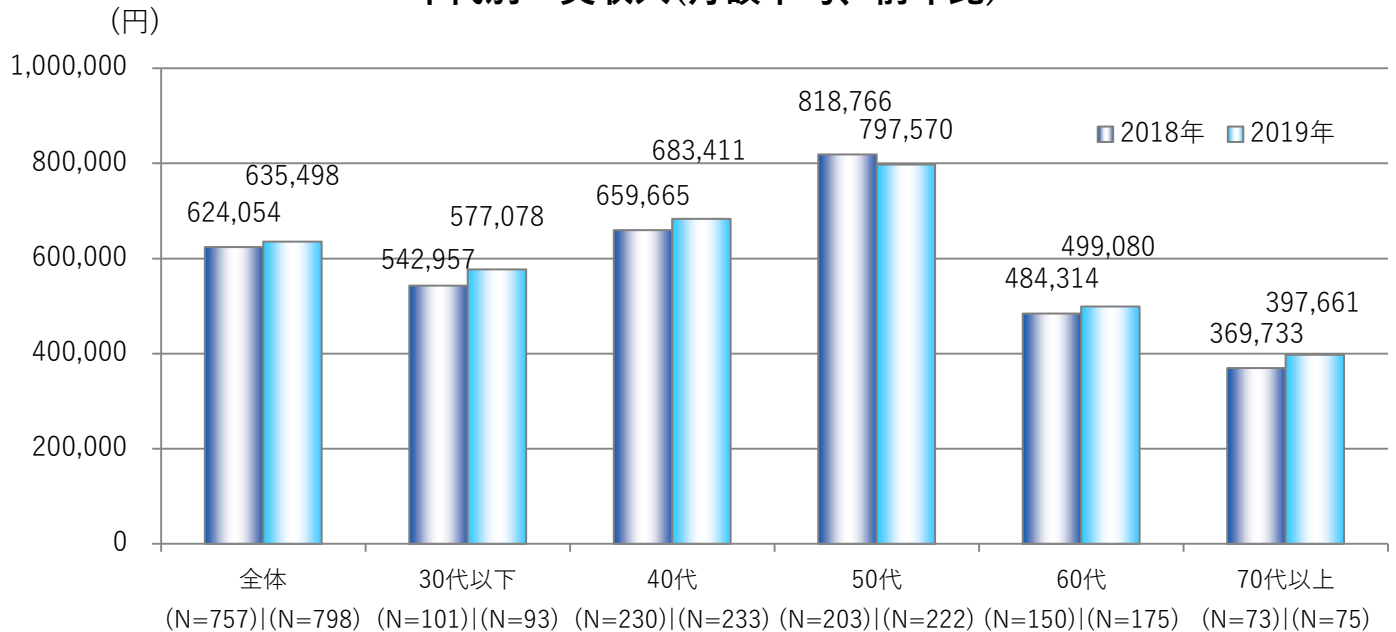


2. 収入・支出

①収入

全モニター世帯における実収入の月額平均は635,498円でした。昨年との比較では50代を除く全年代で微増しました。給与世帯で妻の給与・賞与が1割以上伸長し、30代、40代の収入の増加幅が比較的大きくなっています。年金世帯の実収入は給与世帯の約半分でした。

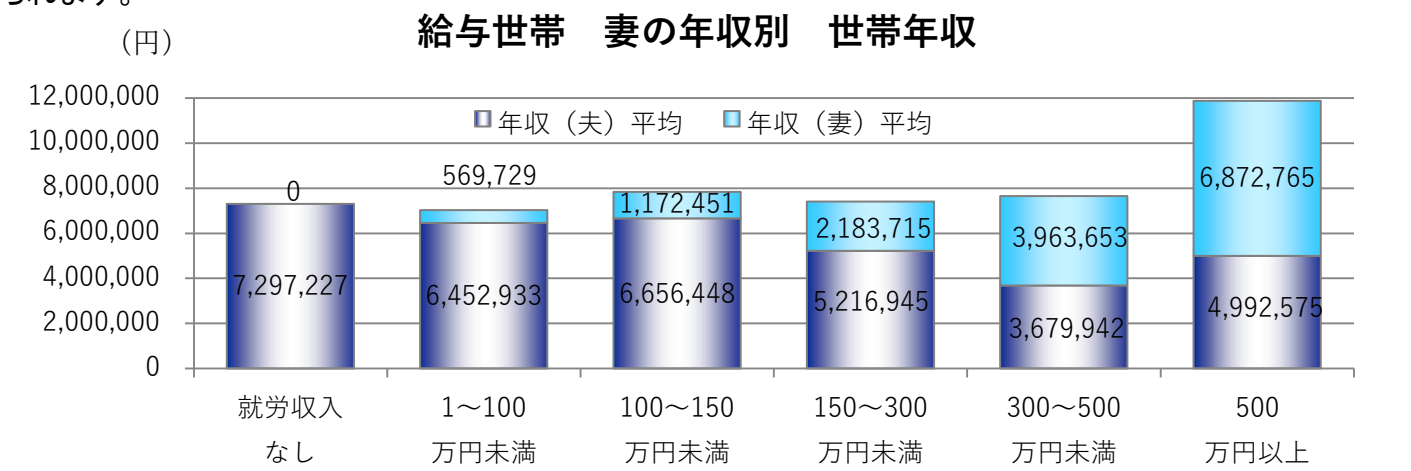
年代別 実収入(月額平均、前年比)



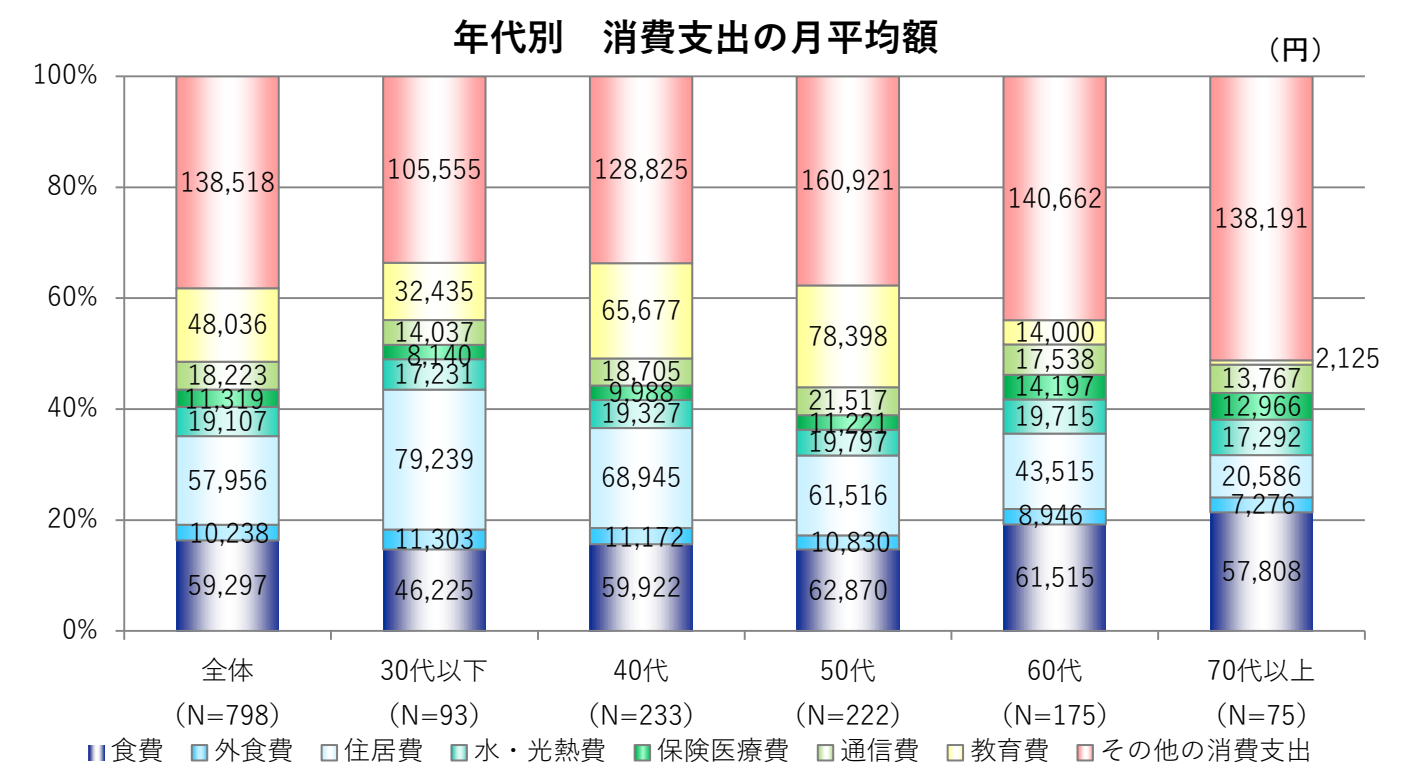
実収入		計	給料 (夫)	給料 (妻)	賞与 (夫)	賞与 (妻)	年金 (夫)	年金 (妻)	その他
全体	月平均金額 (円)	635,498	323,686	87,009	85,808	12,586	41,828	17,691	66,890
	前年比増減率 (%)	2%	-1%	11%	-3%	10%	2%	4%	11%
給与世帯	月平均金額 (円)	675,895	400,490	106,777	108,110	15,915	7,876	2,320	34,406
	前年比増減率 (%)	-2%	-1%	15%	-3%	11%	-14%	-39%	-36%
年金世帯	月平均金額 (円)	347,483	23,771	13,863	317	623	186,096	78,661	44,152
	前年比増減率 (%)	-6%	36%	-29%	-81%	63%	3%	2%	-39%

※「全体」の内訳は、「主な収入が給料の世帯（給与世帯）」「主な収入が年金の世帯（年金世帯）」「主な収入が給料・年金以外の世帯（その他）」と3世帯に分かれます。上表には、給与世帯と年金世帯のみ掲載しています。

妻の所得階層別で夫の年収の平均額を見ました(主な収入が給料の世帯に限定)。横軸が年収(妻)で、縦軸が世帯の年収(夫と妻の合計)となっています。妻の年収が500万円未満の世帯では、妻の年収が高いほど夫の年収は低い結果となりました。夫の年収が低い世帯は妻が就労して家計を支えていると考えられます。



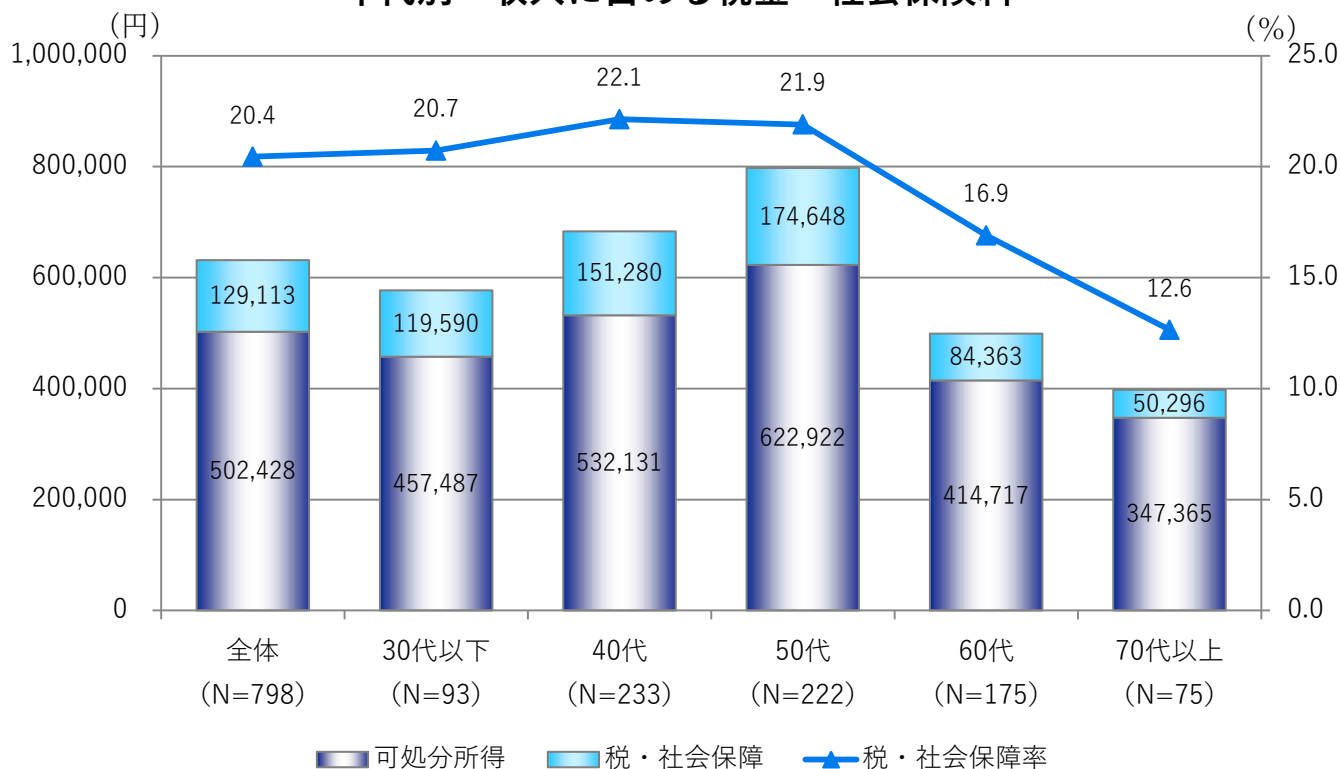
②支出
消費支出の月平均額を年代別、費目別に分析しました。30代以下は「住居費」が最も高く、消費支出の1/4を占めました。40代、50代になると「教育費」の占める割合が大きくなります。消費支出額全体は50代で最も高くなり、60代からは減少し、それとともに食費の割合が大きくなっています。



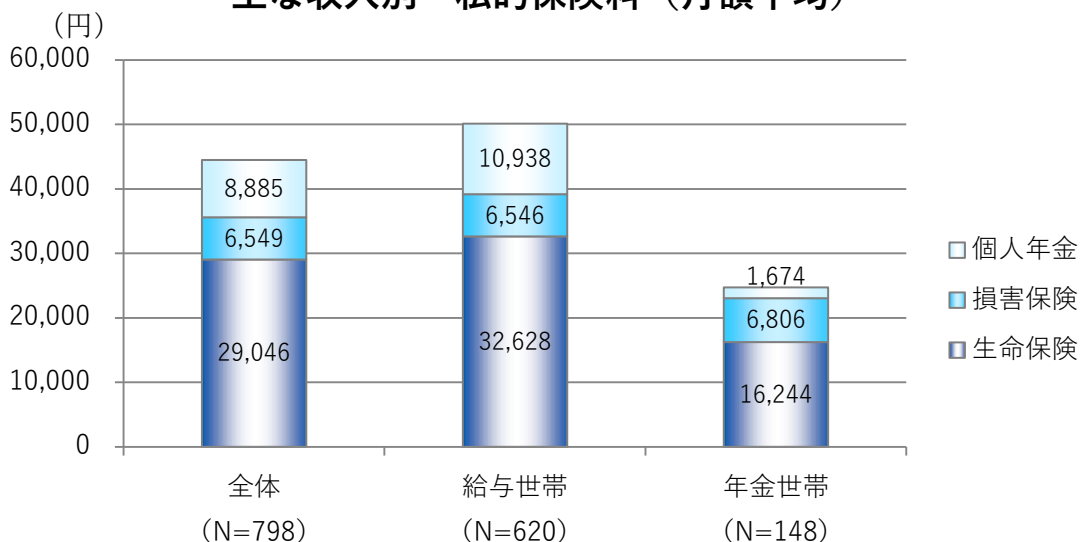
	全体 (N=798)	30代以下 (N=93)	40代 (N=233)	50代 (N=222)	60代 (N=175)	70代以上 (N=75)
消費支出計(円)	362,694	314,166	382,561	427,068	320,089	270,011

年代別に収入に占める税金・社会保険料を見ると、率では40代、金額では収入が多い50代が最も高く、60代以降は低くなるのが分かります。私的保険料については、給与世帯と年金世帯で生命保険の額が2倍差という結果となりましたが、損害保険はほぼ同額となっています。

年代別 収入に占める税金・社会保険料



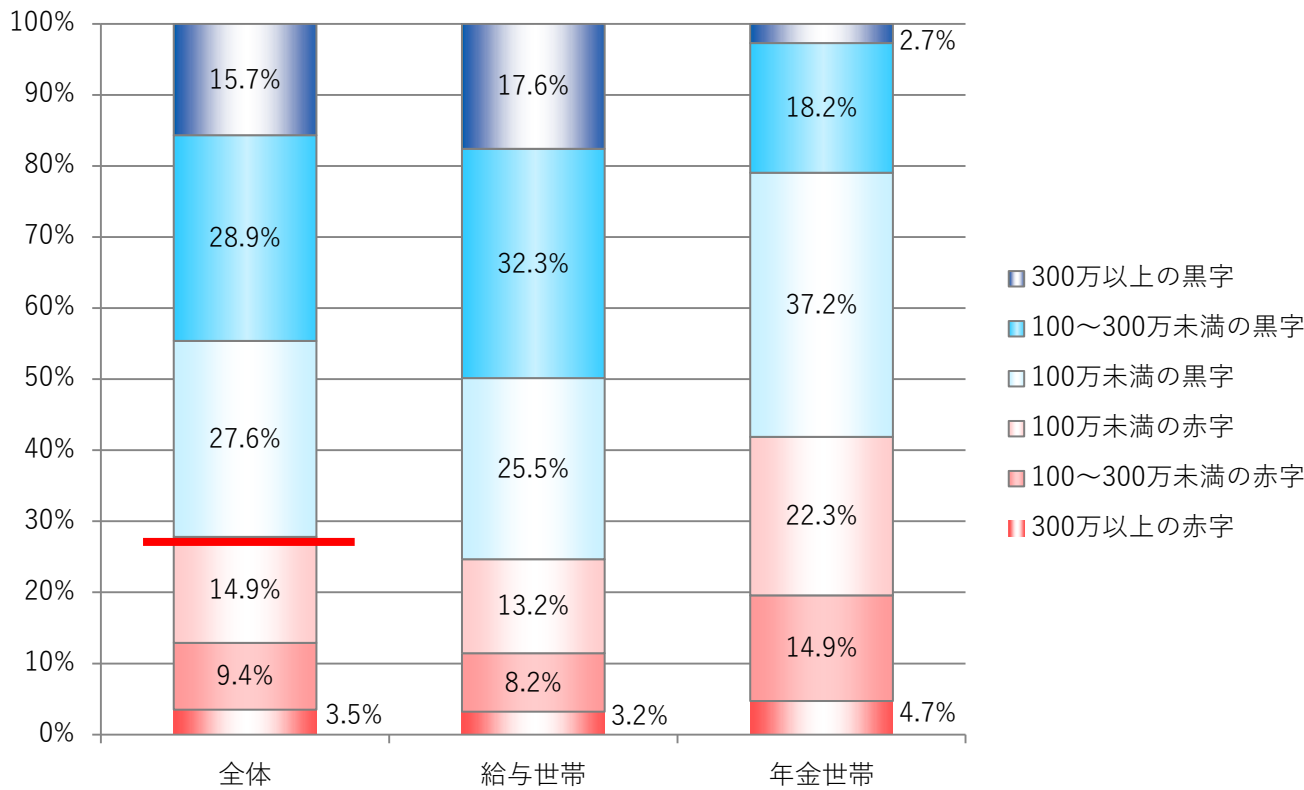
主な収入別 私的保険料 (月額平均)



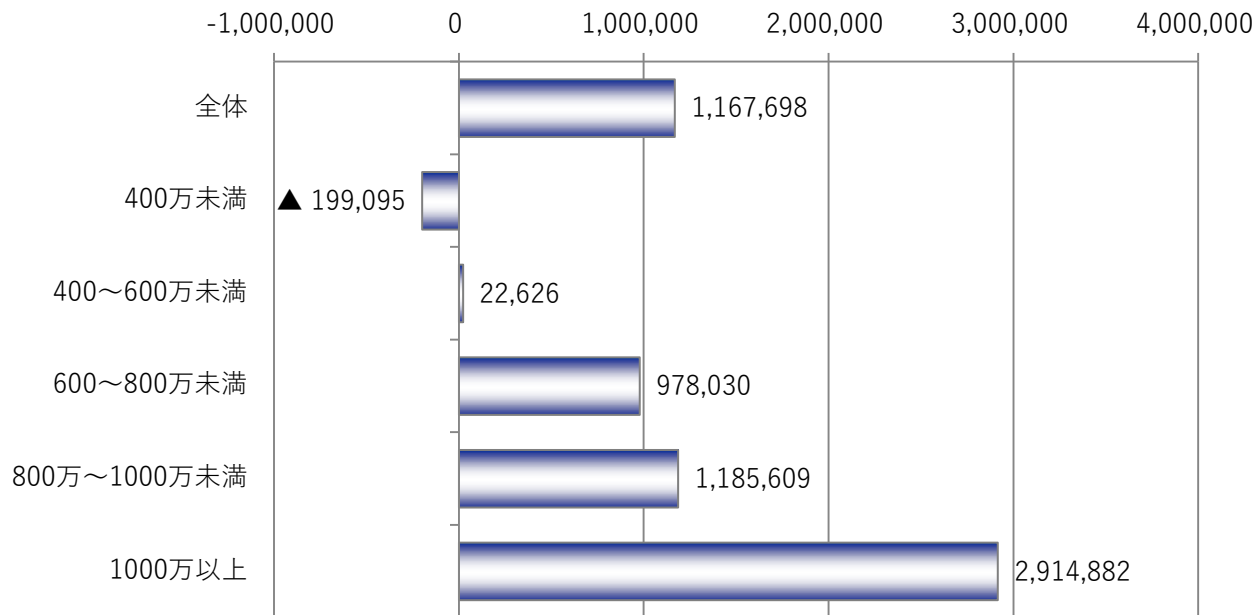
③収支

年間収支が赤字の世帯を合計すると、モニター全体では27. 8%、給与世帯24. 6%、年金世帯41. 9%となっています。主な収入が給与の世帯の年間収支は、全体では1,167,698円の黒字となりました。

主な収入別 年間収支



年収別 年間収支（給与世帯）

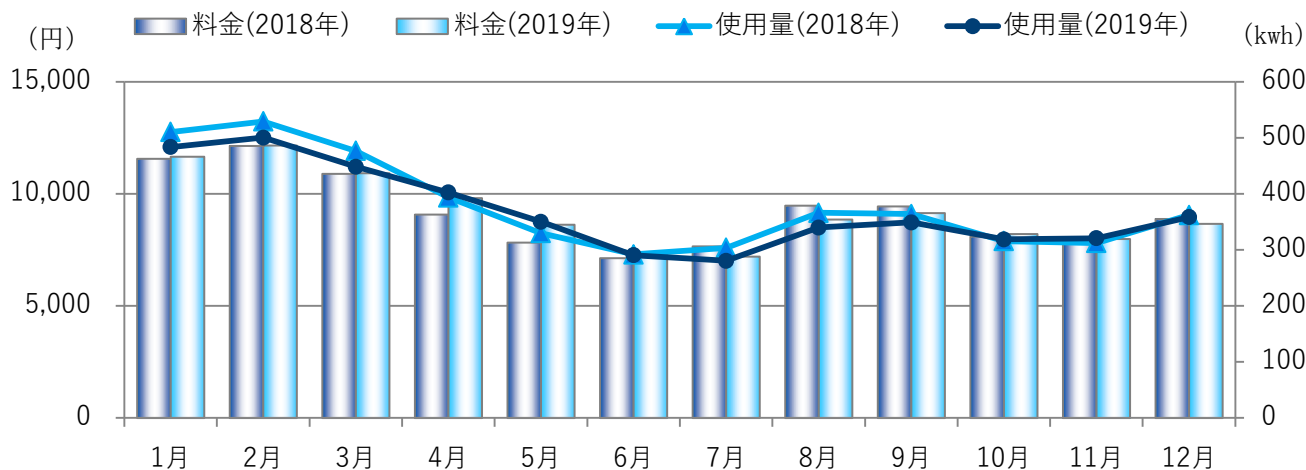


3. 電気・ガスの使用量・料金

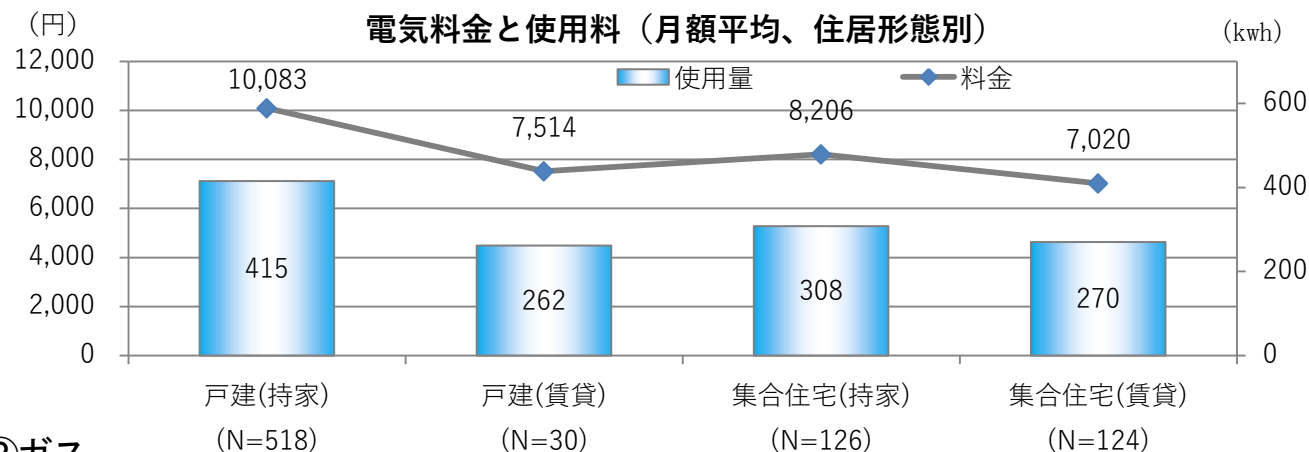
①電気

電気の使用量・料金の月ごとの推移を昨年と比較しました。傾向に大差はないものの、冬場・夏場のピークが昨年より若干下回りました。住居形態別では、戸建て(持家)が最も高く、形態ごとに差が見られました。

電気料金と使用量 (平均、月別の推移)



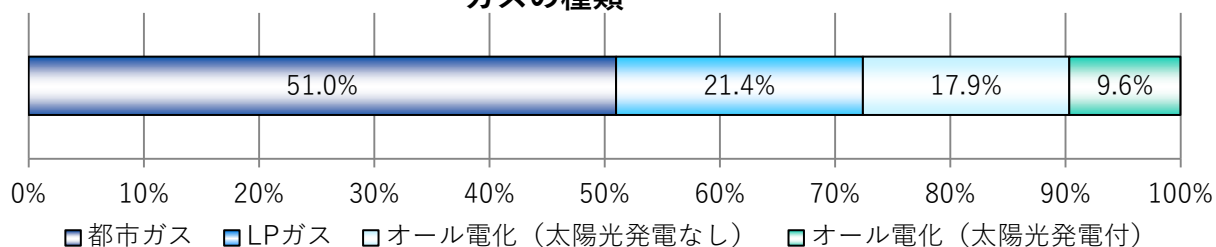
電気料金と使用料 (月額平均、住居形態別)



②ガス

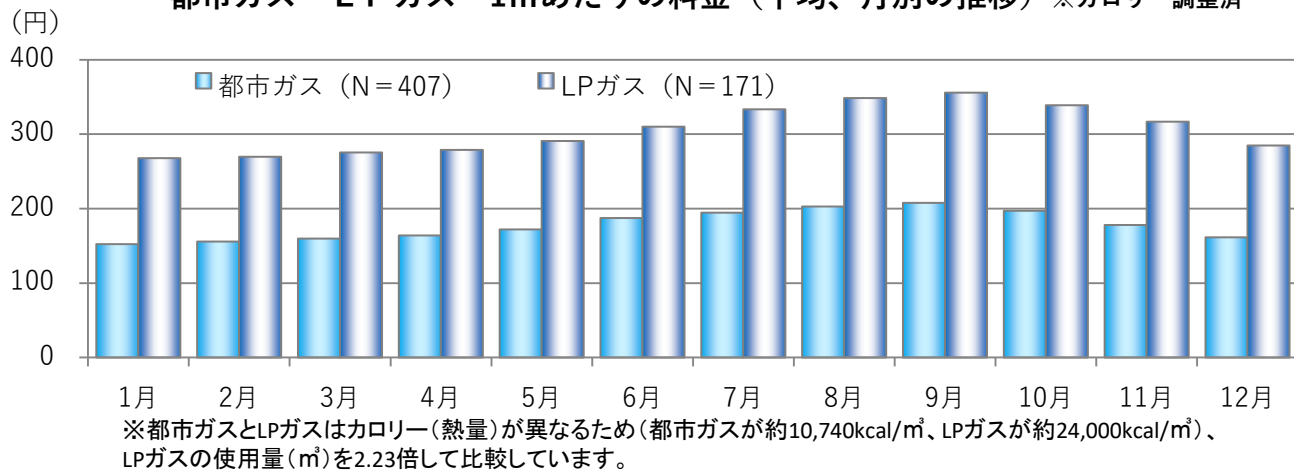
使用しているガスの種類は、都市ガスが51%と半数を占め、LPガス(プロパンガス)が21.4%でした。ガスを使用しないオール電化世帯は26.5%と全体の1/4を占め、そのうち太陽光発電付きは9.6%でした。

ガスの種類

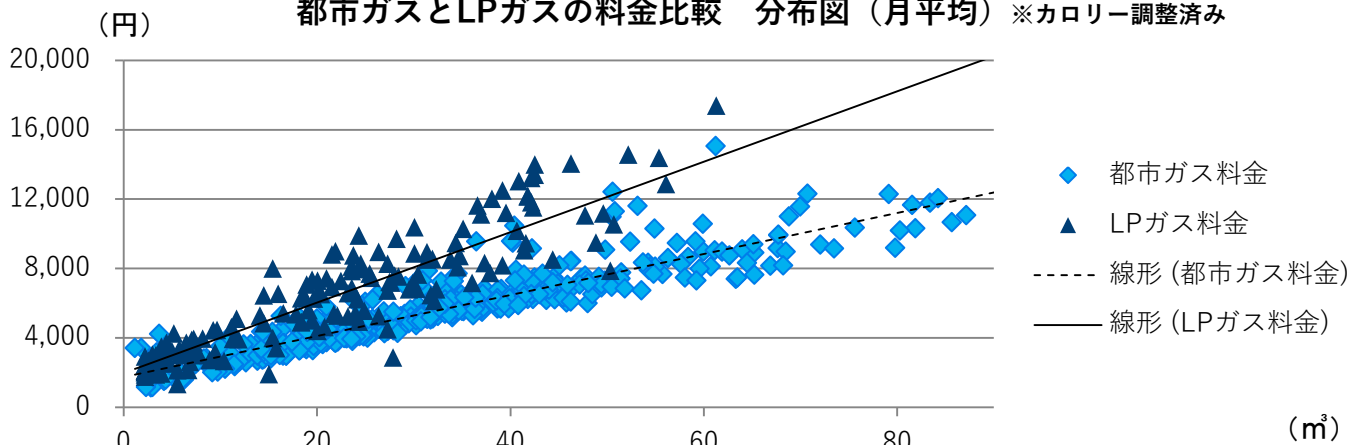


都市ガスとLPガスの1㎡あたりの料金を比較したところ、どの月も、LPガスの方が都市ガスより110～150円程度高いことが分かります。月平均額では、使用量が同じであっても、都市ガスよりLPガスの方が料金が大きく、分布にバラツキが出ました。LPガス1㎡あたりの料金を地域別に見ると、地域により料金に差があることが分かりました。

都市ガス・LPガス 1㎡あたりの料金（平均、月別の推移）※カロリー調整済



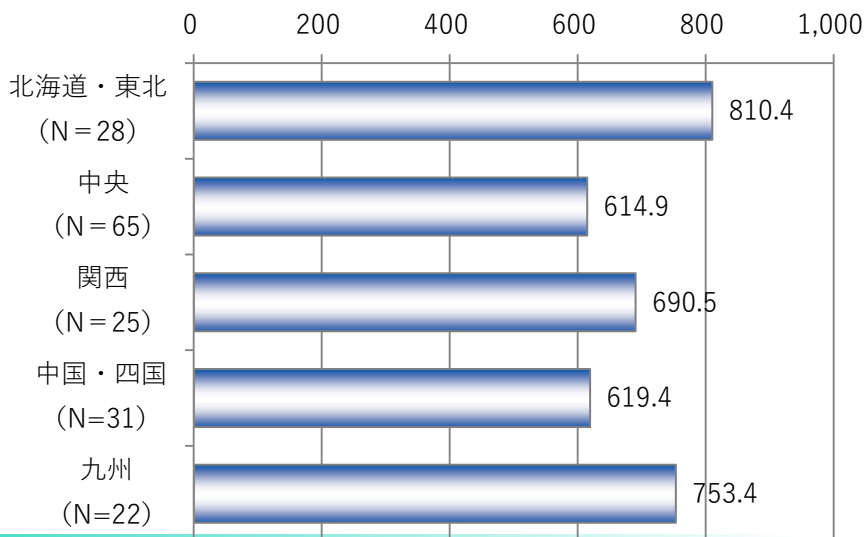
都市ガスとLPガスの料金比較 分布図（月平均）※カロリー調整済み



LPガスの料金と使用量（月平均、地域別）

	料金(円)	使用量(㎡)
北海道・東北 (N=28)	5,195	6.4
中央 (N=65)	6,830	11.1
関西 (N=25)	6,534	9.5
中国・四国 (N=31)	6,450	10.4
九州 (N=22)	5,297	7.0

LPガス1㎡あたりの料金(月額平均・地域別) (円)



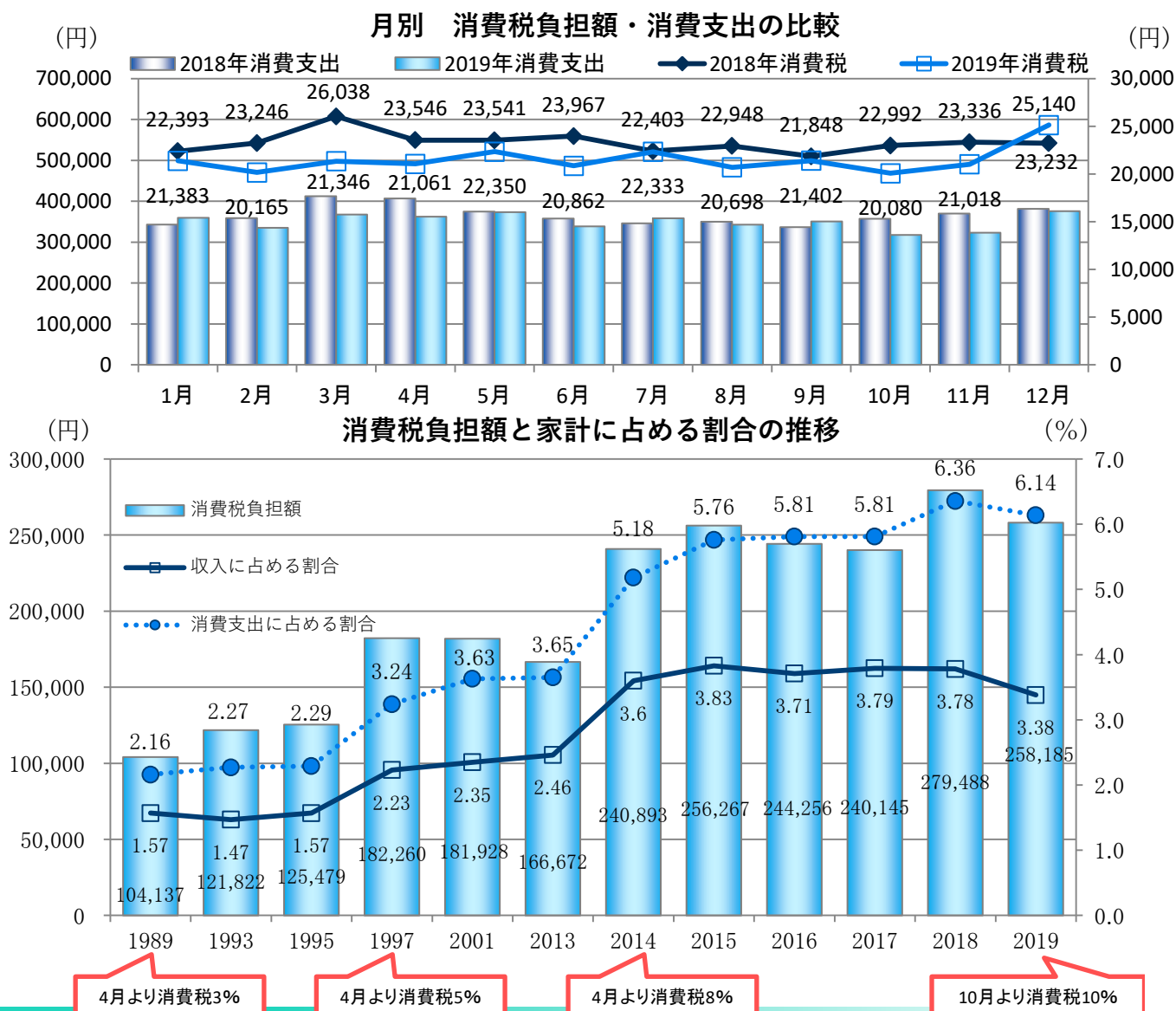
4. 消費税しらべ

【「消費税しらべ」の概要】

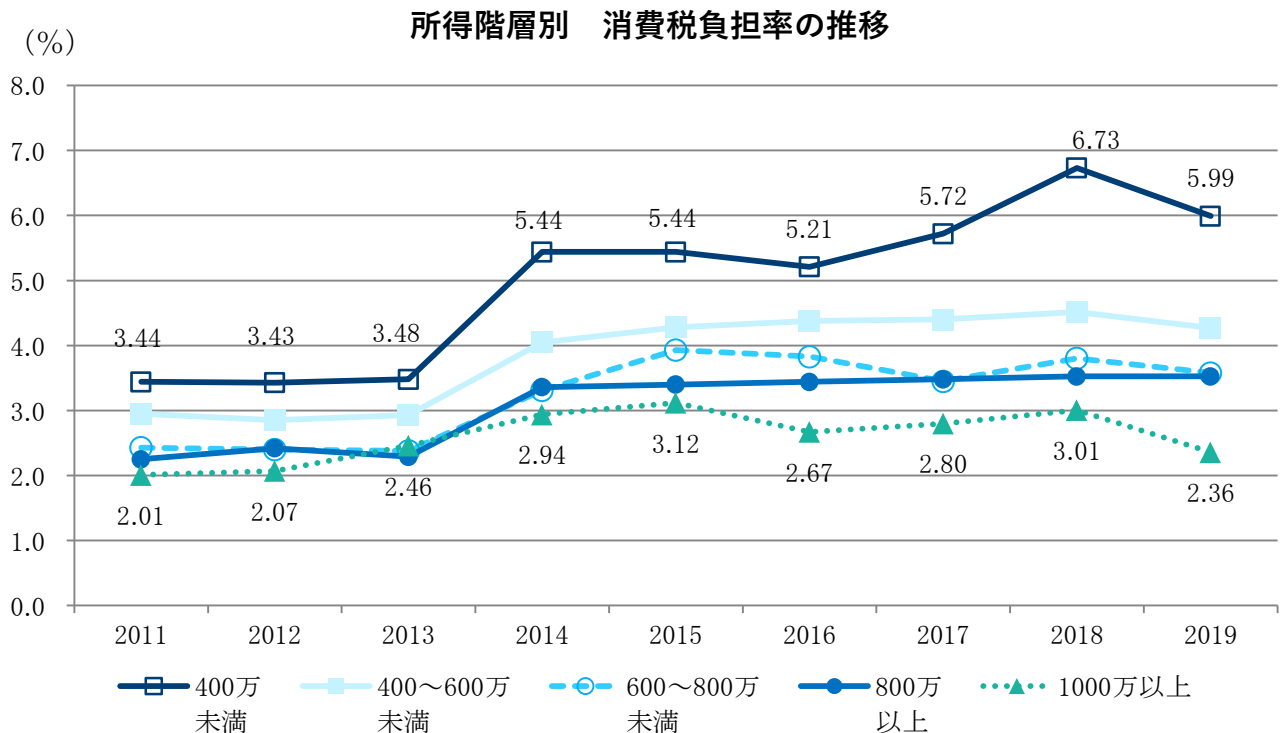
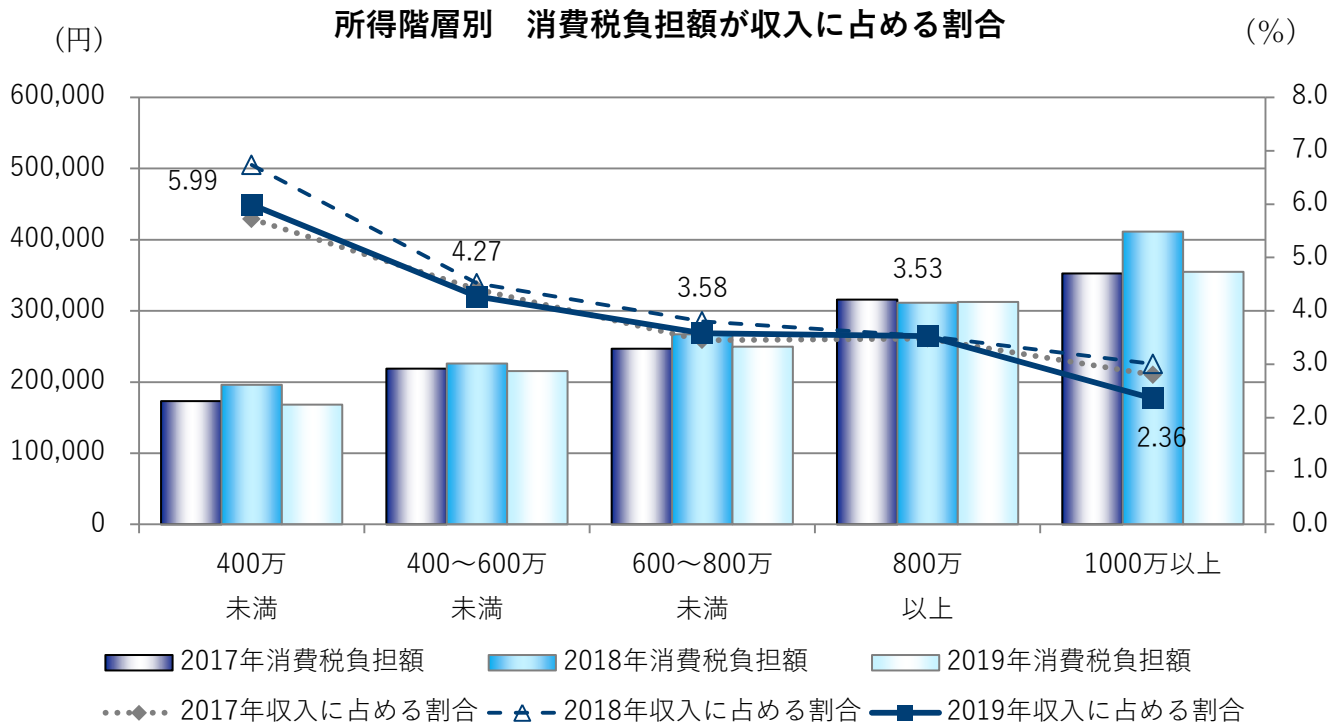
「家計・くらしの調査」と並行して、「消費税しらべ」を実施しました。本調査は「家計・くらしの調査」の参加モニターを対象に、消費支出に占める消費税の金額を提出いただく調査です。

2019年は593名の方にご協力いただきました。なお、本調査は2017年まで実施していた同名の調査と同じ方法で実施しているため、2017年調査以前の数値との比較も行いつつ結果をまとめました。（2017年以前と2018年以降で数値に大きな変化が生じている項目については、2017年とモニターの入替わりがかなりあったことに起因すると考えられます。ご了承ください。）

1カ月当たりの消費税額は平均で21,515円で、昨年よりも1,776円減少しました。10月の税率引き上げ前の支出増（駆け込み消費）が見られず、10月以降も節約モードとなったためと思われます。家計に占める消費税額の割合は、収入が昨年よりも増加（252,612円増、昨年比103%）した一方で、支出の方が節約されたため、消費税負担額の収入に占める割合が昨年より減少しました。



税金には所得税など様々な種類がありますが、消費税について収入に占める負担割合を見ると、所得階層が低い世帯ほど高くなっており、過去2年間の調査と同様の結果となりました。消費税負担率の推移では、収入の増加・消費税負担額の減少により昨年から負担率が減少したものの、年収400万未満世帯と1000万以上の世帯の消費税負担率の差は3.63%と大きく、昨年とほぼ変わらない結果となっています。



お寄せいただいた声（抜粋）

食費が70,000円超え、外食費入れると80,000円近くかかった。4人家族でこの額はかかりすぎな気がする。

3月は上の子の塾代で94,000円、下の子の通信教育年払いで63,000円。幼児教育無償化とかいうけど、小さい子供のいるうちは手厚い支援を受けられても子供がある程度大きくなって教育費の負担がかかるようになるころには支援が薄い現状を考えると、やはり子供をたくさん生むのは難しいと思う。

2017年から電気料金を減らすために契約会社を二回替えるより冷蔵庫を替えたことで凄い効果があり、実家の冷蔵庫の買い替えも勧めたりしていました。

今月でやっと奨学金の返済を終えました。やっと払い終えたかと思うと感慨深いものがありますね。

夫が62歳になり、年金の一部支給が始まった。これで完全リタイアまでに貯蓄を増やそうと考えたのもつかの間、派遣切りとなりました。生産量の減少に伴う人員調整ということですが、また求職活動です。有効求人倍率がプラスになっている？どこの国の話でしょう・・・という感じです。働き手が少ないので、外国人材を求める。でも実際には、働きたいのに働けない非正規労働者がいる訳で、なんとも不思議な気分です。ともあれ、新しい仕事が見つかるまでは、家計を引き締めて頑張るのみです。

高齢者の事故が取りざたされている今、いつまで運転するかで話し合うことが増えた。車に頼った生活をしている今、大きな問題です。とりあえず、75歳をめどにと思っていて。だんだん淋しくなってくる。

平成元年6月20日、日本生活協同組合連合会の家計簿モニター、デビューしました。昨年からは、家計・くらしの調査モニターに。約30年間、家計簿記帳、データ提出しています。平成の30年間で、転勤族の31歳の主人、2歳8カ月と1歳4カ月の2人の息子たちの母の30歳の私は、第2の職場勤務の主人、4歳2カ月と1歳8カ月の2人の孫育てをするおばあちゃんの私に。

どんなに、時代は変わっても、家計簿は私の心強いパートナーです。令和の時代も、家計簿記帳、家計・くらしの調査モニター、一生懸命がんばります。

これから子どもが小学5年生。今の時代、小学4年生からみんな塾に入ってることを知り、子どもも親の私も塾に入れようか？中学受験しようか？悩み中です。無料体験に参加しましたが、駅までの送り迎え、夕飯のお弁当づくり、こどもの塾の宿題の面倒と・・・経済的負担と共に親のココロの負担も増えて大変なこと・・・

共働きしないと経済的安定はしないし、家で子どものココロのケアもしなければならぬ。女性の社会進出と政府は言ったものですが、妻でもあり、母親でもあり、社会でも活躍するために本当に必要なモノは、夫、子どもの家族の協力がないと成り立たない事に気がつきました。

今月から少しでも家計のためにはと思い、ラインペイ、ペイペイのキャッシュレスで買い物を始めました。64歳にして新しいことに挑戦し最初はとまどうばかりでした。今は格好良くスマホで支払っています。

100歳まで生きて夫婦二人の老後資金が2,000万円!?と言われても・・・。無理ですー。そんな蓄えありませーん。年金暮らしの身に自助努力でー、と言われてもねえ。どうしたらいいのかしら???

お寄せいただいた声（抜粋）

働き方改革というが、夫は中間管理職の為その働き方改革から漏れる。10連休前半はどうにもならないと言い6:30から0:00までぶっ続けで働いていた。3日半の休みをふだんやすめない分ゆっくり過ごして欲しいと切に思った。

旦那さん本当にお疲れ様です。そしてありがとうございます。体を壊さないでくださいね。

40年以上続いたお中元を1件、終了することにしました。双方とも親の高齢化で、継続が難しくなったためです。丁寧にお手紙を書き、最終としました。お会いしたことはないのですが、以前お隣に住んでいる方の親戚ということです。昔の人は本当に親密にお付き合いをするのだなあと考えてしまいました。

10月1日からの消費税増税に備えて、生活防衛のために今月は買い物に少なからず心を砕きました。たかが2%、されど2%なのです。近辺の商店からのキャッシュレス決済やポイント還元等に関する情報が乏しく、対応に迷いました。報道でもあるように、そもそも、今回の“増税”に対する政府のやり方はかなり乱暴だったので、商店も消費者もあたふたしたように思われます。

幼保無償化で第3子の保育料32,000円が今月から不要になりました！！

2019年の年間集計をした。支出のベスト3は①教養娯楽費②自動車関係費③職業主婦費でした。2019年も元気でよく働きよく遊びました。結婚以来家計簿をつけて43年。数字とにらめっこしながらやりくりしてきました。次男の最後の学費を払い、やっと自分のためにお金を使えるようになりました。子育てしながらライフプランを立てやりくりしていたおかげで、今を楽しめているのだと思う。家計簿と歩んできた生活です。2020年も元気に楽しみたいと思います。

消費税10%になるのかな。食料品食べるのと持ち帰りで課税率が違うとか。なんとまあありがたいようなめんどくさいというかややこしい。食べ物だけでも全部低く抑えてほしいです。

8月28日の夜明け前から大雨洪水特別警報4が報道されました。我が家も家の周りは水、水の状態でした。幸いにして少しだけの被害で済みました。大町町や北方町、武雄市の被害は水と油の被害です。胸が痛みます。

消費税増税前のお買い物。まずは通勤定期券6ヶ月。増税後だと1500円近くUPするので、これだけは絶対外せない。次に、趣味の合唱団の練習に通うための電車の回数券、全7種類。3ヶ月以内の練習日程を指折り数えて、2セット買った区間もあります。後はトイレトーパーやら洗濯用洗剤やら細々した物。と言っても予備を1個余分にした程度ですが…キャッシュレス決済でポイントが…って、いったいどこでやってるんでしょうねえ…ウチの近所では見かけないのですが…ま、だいたいクレジットカードなんて持ってないし、「いつもニコニコ現金払い」が私の motto だし…

支払方法が現金以外だと後から数%返ってくる仕組みになっているので消費税上がる前より安く買えるものもある。少額支払いも高額支払いもできるだけ現金以外で払うほうが得になっているのはありがたい。9月に買いだめするよりも10月以降にキャッシュレス支払いのほうが安く買えるものが多くなっていた。

消費税増税から3ヶ月が経ちました。無駄な買い物を極力抑えて暮らしていますが、何だか侘しさが拭えません。キャッシュレスによるポイント還元といっても、地方では対象になるお店が少なくあまり恩恵が受けられません。政府の対策は片手落ちです。この不公平を何とかしてほしいのですが。

集計表(総平均)

	30代以下	40代	50代	60代	70代以上
給料（夫）	346,147	400,472	450,493	176,724	24,843
給料（妻）	70,860	115,347	103,979	62,962	24,879
賞与（夫）	105,509	104,719	129,780	30,189	2,244
賞与（妻）	14,909	21,054	10,401	6,884	3,164
年金（夫）	569	986	3,308	102,779	191,675
年金（妻）	4,428	1,180	3,609	34,696	87,432
その他の収入	34,656	39,652	95,999	84,846	63,424
収入計	577,078	683,411	797,570	499,080	397,661
所得税（夫）	22,479	22,102	33,326	9,638	2,538
所得税（妻）	1,896	4,025	2,328	1,336	733
住民税（夫）	17,106	22,007	28,775	12,952	4,899
住民税（妻）	2,331	4,484	3,301	2,239	1,327
その他の税金	5,160	7,657	8,951	9,927	10,403
税金計	48,972	60,274	76,681	36,092	19,901
健康保険（夫）	20,189	26,859	30,218	20,350	19,377
健康保険（妻）	3,719	6,319	5,399	4,871	8,008
厚生年金（夫）	37,921	43,430	47,781	15,145	986
厚生年金（妻）	6,172	10,319	7,423	4,806	1,658
雇用保険（夫）	1,244	1,624	1,777	495	0
雇用保険（妻）	196	465	219	145	42
国民年金（夫）	788	277	667	307	281
国民年金（妻）	389	328	1,520	1,293	6
国民年金（子）	0	1,384	2,963	859	36
社会保険料計	70,618	91,006	97,967	48,271	30,395
生命保険	32,482	33,391	31,916	20,739	22,172
損害保険	5,463	5,296	7,588	7,788	5,830
個人年金ほか	8,297	11,277	11,923	4,307	3,868
私的保険料計	46,242	49,964	51,427	32,834	31,870
食費	46,225	59,922	62,870	61,515	57,808
外食費	11,303	11,172	10,830	8,946	7,276
住居費	79,239	68,945	61,516	43,515	20,586
水・光熱費	17,231	19,327	19,797	19,715	17,292
保険医療費	8,140	9,988	11,221	14,197	12,966
通信費	14,037	18,705	21,517	17,538	13,767
教育費	32,435	65,677	78,398	14,000	2,125
その他の消費支出	105,555	128,825	160,921	140,662	138,191
消費支出計	314,166	382,561	427,068	320,089	270,011

調査票

家計・くらしの調査 ◆ 12月分 ◆

こちらは「家計・くらしの調査」の調査票のページです。
費目をご入力の上、「確認画面へ」ボタンを押してください。

入力の締め切りは1月20日です。

※収入・支出が発生しなかった費目については「0」をご入力ください。

※*は必須項目です。

※入力に困った時は「家計・くらしの調査」手引き、または費目検索をご参照ください！

○「家計・くらしの調査」手引き [←こちらをクリック](#)

○「家計・くらしの調査」費目検索 [←こちらをクリック](#)

○「家計・くらしの調査」生計費調査との比較対照表 [←こちらをクリック](#)

収入		
給料	夫*	円
	妻*	円
貸与	夫*	円
	妻*	円
年金（公的・私的）	夫*	円
	妻*	円
その他の収入*		円
収入計		0円

税金（直接税）		
所得税	夫*	円
	妻*	円
住民税	夫*	円
	妻*	円
その他の税金*		円
税金（直接税）計		0円

社会保険料		
健康保険 ※介護保険も含む	夫*	円
	妻*	円
厚生年金	夫*	円
	妻*	円
雇用保険	夫*	円
	妻*	円
国民年金	夫*	円
	妻*	円
	子*	円
社会保険料計		0円

私的保険料	
生命保険*	円
※定期保険、養老保険、終身保険、 医療保険、がん保険、学費保険など	
損害保険*	円
※CO・OP火災共済、火災保険、 自動車保険、旅行保険など	
個人年金ほか*	円
私的保険料計	0円

消費支出	
食費*	円
※外食を除く、中食を含む	
外食費*	円
住居費*	円
水・光熱費*	円
保健医療費*	円
通信費*	円
教育費*	円
その他の消費支出*	円
消費支出計	0円

◆ 上記の「水・光熱費」のうち、電気とガスについて詳しく教えてください。

電気・ガス		
電気 ※使用量について、 小数点以下は四捨五入し 整数でご回答ください	料金*	円
	使用量*	kwh
ガス ※ガスを使用していない方は 「0」とご入力ください ※使用量について、 小数点以下は四捨五入し 整数でご回答ください	料金*	円
	使用量*	m ³

◆ 1つの項目で100万円を超える大きな支出があった場合は
「今月の家計についてひとこと」欄にその用途を具体的に記入願います。

今月の家計についてひとこと

消費税しらべ（任意回答）

◆ こちらは「家計・くらしの調査」とは別の調査で、任意回答です。

◆ 以下の方法で金額を算出し、「消費税額」の欄に記入してください。
・消費支出から消費税が課税／非課税となる支出で分ける
・消費税がかかる品目から、軽減税率対象の品目(A)と、非対象の品目(B)に分けて支出金額を集計
・ $(Aの支出金額合計 \div 108) \times 8 = Aの消費税額$
・ $(Bの支出金額合計 \div 110) \times 10 = Bの消費税額$
・ $Aの消費税額 + Bの消費税額 = 消費税額$
※小数点は入力できないため、四捨五入して整数でご回答ください。
※詳細は「手引き」の16ページを参照ください。

◆ 「消費税しらべ」に12ヵ月連続でご協力いただいた方には、別途500円の図書カードをプレゼントいたします。

消費税額 円

確認画面へ